

## 青谷地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年11月27日（火）19:00～20:10
- 2 場所 青谷地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 18名  
市出席者 3名（深澤市長、安本地域振興局長、山本青谷町総合支所長）



#### 4 テーマ 全地区公園化構想の実現について

#### 5 概要

（地元あいさつ）

先日、大阪万博の開催が決まった。2020年には東京オリンピックも控えており、これはすごいことだと感じている。

この地域づくり懇談会に各団体の代表である皆さんに参加していただき、私たちが住む青谷地区について話し合うことはとても有意義だと思っている。本日は忌憚のない意見交換をお願いしたい。

（市長あいさつ）

今年から地域づくり懇談会の進め方を少し変えており、少人数で膝を交えて、ざっくばらんに意見交換させていただきたいと考えている。

今年は災害が多く発生した年であった。青谷地区においても台風24号の襲来により、多くの被害が発生している。改めて被災された皆さんに心より御見舞い申し上げます。台風の被害等についてはこれまでも対応させていただいているが、台風24号の関係については11月30日に臨時議会を招集し、全ての小中学校にエアコンを設置することと併せて補正予算を計上する予定としている。出来る限り速やかな復旧に努めていきたいと考えている。

## 青谷地区の取組みの説明

### <テーマの背景>

青谷地区は、青谷上寺地遺跡や山陰海岸ジオパークに属する鳴り砂の浜、長尾鼻を有しており、平成30年度には北前船寄港地、船主集落として日本遺産登録されました。観光場所や魅力はありますが、青谷地区全域で一体となった取組みとなっていません。平成30年度に青谷中央広場（仮称）が整備され、平成31年度には青谷上寺地遺跡史跡整備の事業に着手されるのを契機に、青谷地区一帯を公園としてとらえ、一体感を持って取組むことで、地区内の観光客の集客及び地域の活性化につなげたいと考えています。

### <地域の取組み>

○河川美化活動：青谷町自治連合会の取組みとして、平成30年3月に青谷町全域が一斉に勝部川・日置川の清掃を行いました。また、日置川護岸・勝部川護岸の草刈りは、周辺の町内会、中央広場周辺の草刈りは公民館ボランティア活動で行っています。単に清掃・草刈りをするだけではなく、護岸（土手）に、伝統行事菖蒲綱引き用の菖蒲を植えたり、花を植えるなどして、地域にうるおいが出ればと考えています。今後美化活動を通じてそのような活動が広がることで、地域全体が憩いの場になればと考えています。

○青谷上寺地遺跡関係では、青谷上寺地遺跡活用協議会が主となり、青谷上寺地遺跡周辺で、古代米栽培、コスモス栽培を行っています。

○ジオパーク保全活動：鳴り砂クリーン作戦（年2回）、長尾鼻自然保護活動（年1回）を実施しています。また、青谷海岸では、鳴り砂ビーチフェスタや青谷高校生のサーフィンの授業等も実施されています。集客の見込めるスポットであり、地元としても大切にしたいと考えています。

それぞれの団体が、単体で事業を行っているため、青谷地区全域の一体感が醸し出されていない現状があります。地域の資源の保全と利活用について、今回の地域づくり懇談会で行政と地域住民と一緒に考え、意見交換の機会としたいと考えています。

（地元）

今回のテーマはまちを綺麗にするためにどうしたらいいかというだけの話だろうか。

（司会）

綺麗にするだけで終わるのではなく、綺麗になった資源を利活用していきたい。

(地元)

目的がはっきりしていればいいが、公園化構想というテーマはどこにでも当てはまる抽象的な表現であり、何のための意見が聞きたいのか分からない。例えば、遊んで滞在もできるまちづくりが必要なのか、それとも静かに暮らしていけるまちづくりがいいかなど、どういう趣旨なのかがこのテーマからは分からない。

(司会)

遊ぶことができ、住民が生き生きと暮らせるようなところにするためにはどうしたらいいかという思いで、本日のテーマを設定させてもらっている。そのように捉えていただき、ご意見をいただければありがたい。

(地元)

山陰海岸ジオパークには青谷も含まれているが、その宣伝は白兔海岸までが多く、青谷を含めた集客の宣伝や整備が全くされていない。鳴り砂については、井手の海に下りるための階段がずっと壊れたままの状態であり、危なくて通れない。トイレも古く、バリアフリーにもなっていないため、家族連れが訪れにくいと思う。同じような海沿いのまちである高知県の四万十市では、海岸にあるほとんどの公共トイレが綺麗な状態であり、バリアフリーとなっている。駐車場も整備されており、多くの家族連れやサーファー、釣り人が、自然の海を楽しむために何度もやってきている。青谷にも綺麗な海があり、サーフィンや釣りで来られる方もいるのに、あまり整備されていない。いくら青谷にはいいものがあると呼びかけても、お客を受け入れるためにお金をかけていかなければ、誰も来ないと思う。

(地元)

鳥取は公共交通が少なく、車が主な交通手段になると思うが、駐車場が分かりづらい所が多い。青谷の町中でも、祭りの日と重なると全く駐車できないという状況が多々ある。駐車場の整備とともに、駐車場の場所を発信できるようなシステムを作り、案内できれば親切だと思う。

住んでいても気づかないが、県外から来た人が気づく青谷の良さがあると思う。住んでみたい、また来たいという意見もたくさんいただいている。青谷にはすばらしい観光資源や文化財資源があるため、それらを生かして県外や海外の方にも発信していけたらすばらしい町になると思う。

(地元)

手付かずにした方がいい観光資源もあると思うが、青谷のように鳴り砂や上寺地遺跡、北前船の寄港地の場所を紹介するだけだと、訪問された方は不満が残るのではないかと考えている。北前船や上寺地遺跡のことを踏まえると、観光におけるこれからの青谷町のキーワードは「交流・交易」ではないかと思っており、町おこしに生かしていくべきではないかと考えている。皆さんで英知を結集し、いいものを作っていくことができればと思っている。

(地元)

3月に区長会で河川の清掃を実施した。鳴り砂クリーン作戦は2回実施している。ただ、大雨のときは大量のごみが砂浜に打ち上げられるため、重機がないと片付けができない状態である。今年は業者が2回ほど清掃しているが、業者と住民との連携が取れていない。しっかり連携して活動していかないと、美化に対する住民の意識が高まらないと思っている。必要ときにはお金をかけて重機を入れて清掃できるよう支援していただきたい。

(司会)

鳴り砂は泥が混ざると鳴らなくなってしまうことがあるので、海岸だけの問題ではないと思っている。

(地元)

鳥取砂丘の一斉清掃は結構人気があり、清掃するために渋滞を作ってまで人が来る。山陰海岸ジオパークの清掃という名目で、砂丘一斉清掃の一部の人を白兔や青谷まで呼び寄せられるような仕組みを提案してほしいと思う。

(地元)

清掃活動に関しては、発信力が大事であり、上手に発信すればもう少し集まるのではないかと思っている。

青谷では海岸の侵食が進んでおり、鳴り砂どころの話ではなく、海岸がなくなるかもしれないという状態である。保全するのであれば、しっかり保全していかないといけないと思っているので、検討材料に入れていただきたい。

(地元)

田んぼの耕作放棄地が増えてきており、生い茂った草の中をイノシシが堂々と道を作って、民家の近くまで出て来ている。今年、地元の若者が集まって、何年も放棄されていた田んぼの草刈りをしたことで、ようやくこの冬になってイノシシが出なくなったが、高齢者が多くなって農業をしている人が少なくなり、農地の半分以上が放棄地になっている。一部の企業が委託を受けて農業をしているが、そちらも手が回らないという状況である。住民側も景観に対する意識をさらにもって、何か活動ができればと思っている。

(地元)

上寺地遺跡が平成31年度頃から整備されるという話は聞いているが、どのように整備されていくのかは分からない。現在は上寺地遺跡の範囲で、多少のお金をいただきながら、以前は田んぼだったところを年2回ぐらい綺麗にしている。今年は特にコスモスがよく咲いており、車を停めて写真を撮っている方を何人も見た。ちょっとしたことで違ってくると思う。

(地元)

鳥取森田株式会社の跡地が心配である。青谷駅からは壊れそうな建物や生い茂った草むらが見えており、景観が悪い。いくら公園を整備していただいても、あの跡地が残るようであれば悲しい気がする。鳥取森田の跡地を整備していただくことはできないだろうか。

駅前に地図が記載された看板があったと思う。今後の整備計画があるのかもしれないが、鳴り砂や湊神社の場所を示したような地図があれば、いいアピールになるのではないかとと思う。

(地元)

従来のように行政主導で住民を引っ張っていく時代はもう過ぎたと思っている。これからの事業は、いかに住民と行政が協働してまちづくりをやっていくかだと思っている。本日の公園化構想では、どのようにして住民に事業を理解していただき、参加してもらえるかが、1つの大きな課題だと思っている。

事業を実施する上でのキーワードを花にしてはどうだろうか。青谷町にはたくさんの資源があるが、それぞれ点としてしか活用されていない。それらを面として活用し、最終的にはまち全体として利活用されて初めてまちづくりができるものだと思っている。そこで、上寺地遺跡や鳴り砂の浜等の周辺に大々的に花を植栽し、四季を通じて観賞できるようにしてはどうだろうか。花は人の心を和ませるものだと思っている。資源は資源として生かしながら、その周辺に花を植栽することによって、資源の付加価値を一層高めていくことが大切ではないだろうか。

ただ、花を植栽するに当たり、行政だけがお金を出すのではまちづくりにならない。自分たちでもお金を出すことで、自分もまちづくりに参画したという意識が出てくると思う。住民の方々に寄付金を募るような形とし、植栽に当たっては小学生や中学生にも参画していただき、町民全体が自分たちの町を作っていくという、意識の醸成をしていってはどうだろうか。

(市長)

青谷地区には、上寺地遺跡、このたび日本遺産に追加認定された北前船の寄港地、鳴り砂の浜などのすばらしい資源がたくさんあると思っている。それらをいかにして繋ぎ、生かし、発信していくか、今はまさにその緒に就いた時期だと思う。また、鳥取西道路は来年の夏までに供用開始になると聞いているが、もう少し早く開通するという話も聞いており、こういうことも好機になると思う。

山陰海岸ジオパークは前回の更新審査から4年が経過し、今、2回目の審査を受けている。年明けには発表があると思うが、感触は良かったと思っている。白兎海岸のあたりまでしか宣伝されていないのではないかという話もあったが、決してそうではなく、前回の更新審査で追加認定されたエリアであるため、まさにこれからだと思っている。

砂丘一斉清掃のエリアを青谷まで広げて取組んではどうかというご提案をいただいた。ジオパークは、地質学的に優れていることや価値があるというだけではなく、それをいかに

地域で生かしているか、保全をしているかということが評価のポイントになる。例えば、鳥取砂丘では除草活動の評価が非常に高かった。今後は青谷までのエリアをどのように生かし、保全に取組むかが4年後の更新審査の大きなポイントになると思っている。全市的にこのジオエリア全体で美化活動に取り組んでいくことが実現出来たら良いと思っている。

北前船寄港地については、追加認定いただいた直後であるので、どう生かすかはこれからの取組みだと思う。人や物流だけでなく、いろいろな文化も伝わり、すばらしい交流があったということを我々が改めて認識し、皆さんと一緒に大いに発信していきたい。

上寺地遺跡には数も内容も優れた出土品がある。今、県との整備の負担割合が決まったところであり、来年度以降に本格的に整備保全が始まるため、この上寺地遺跡も大いに発信していきたいと考えている。

鳥取市では平成20年を協働のまちづくり元年と位置付け、市内61地区にまちづくり協議会を設置していただき、いろいろな取組みを進めていただいて10年が経過したところである。10年を一区切りとし、今までの取組みを振り返って検証しながら、今後どのように協働のまちづくりを進めていくか、改めて皆さんと一緒に考えていきたいと思っている。

(地元)

観光案内の看板はもう出来上がっているところだろうか。

(青谷町総合支所長)

駅前にあった案内看板は基礎に不安があったため、一旦取り外して、駅前の整備が終わってから立て直そうとしている。看板のデザインはまだ決まっていない。

北前船についてはPRの看板が立っているので、ぜひ出かけて見ていただきたい。

(地元)

青谷地区で全家庭を対象にアンケートを取った。その中では、安心して暮らせるまち、住みやすいまちがいいという意見をたくさんいただいた。

勝部川や日置川の美化活動を昨年度に実施した。昨年度の反省も多々あるので、それらを是正しながら、一步ずつ進めようと思っている。

先ほど話があったように、行政の指導を仰ぐだけではなく、皆さんの盛り上がりで行政を利用するぐらいの力が必要だと思う。上寺地遺跡のグランドオープンが10年後だが、鳥取西道路の開通も踏まえ、民意の力で行政をうまく利用していきたいと思う。

(地元)

井手ヶ浜の階段や青谷海岸の清掃について、ジオパークなのになぜと思うくらい全く手をつけられておらず、日々悶々としていた。そういった整備にはお金がかかり、住民だけの力では出来ないため、ぜひ整備を行っていただきたい。

美化活動の話があった。地域全体での活動にはなかなか参加しづらいが、小さな規模での

美化活動であれば参加しやすい。そこから少しずつ活動を広げていけばいいと思っている。先ほどのコスモスの話も年によっては失敗もあると思うが、繰り返していれば行ってみようと思う人が出てくるのではないか。

地域の若い人は行きたいと思える所が近くになくて外に出ようとするところがあるが、青市が始まると若い方がリピーターとしてよく来られる。そういう場として維持できるような取り組みを続けていくことがいいのではないだろうか。

上寺地遺跡も歴史的な価値はあるが、歴史ばかりだと、よく分からないから行きたくないという人がいるかもしれない。歴史を学べるだけでなく、楽しめるようなところも取り入れていただけたら良いと思う。

(地元)

空き家についてずっと気になっている。外から人に来てもらうのはいいが、住みたいけど住むところがないという話を聞く。鹿野でも同様の話があるようで、青谷としても、人が入らず、若い人がいないとなっては問題だと考えている。若い世代も、青谷に土地が空いてなければ外に出て行ってしまおうと思うため、空き地や空き家が活用できるようなアイデアをいただければと思う。

青谷にはサーファーもよく来ている。駐車場がなく、トイレが汚くても来てくれており、そういった方々をもっと歓迎しないと、浜村や白兔に行ってしまうと思う。

(地元)

上寺地遺跡の整備が少しずつ動き出している。国の支援もあり、良いものが出来上がるのではないかと考えている。この10年ぐらいの間にみんなで本当に頑張り、点が線になって線が面になるような整備をしていかないと、本当に高齢者しか残らないような町になるのではないかと心配している。

北前船寄港地の付近については、和紙の灯籠を作ることなどを集落で考えてもらったりすれば、とてもおもしろいと思う。お金がかかるため全ての家がやってくれるかは分からないが、屋号がある家だったら屋号を入れてもらったり、家紋を入れてもらったりして頑張ってもらいたいと思っている。

(地元)

周りを引っ張っていく女性のパワーは、すごいと感じている。そのパワーを今回のような会議にも活用し、女性の視点を大事にしたら集客できるのではないか。

(地元)

よく青谷全体の元気がないという話が出てくる。各地区がそれぞれやってもバラバラになってしまう。青谷町5地区全体で連携していったほうがいいのではないだろうか。

(市長あいさつ)

本日は多岐にわたるテーマについてご意見、ご提言をいただいたと思う。1つひとつ取組んでいきたいと考えている。

長尾鼻辺りの遊歩道が崩れたままであるという話があったが、所有関係や過去の経緯も調べたところ、鳥取市でできる部分もあるようなので検討してみたいと思う。

鳥取森田株式会社の跡地が景観上の課題ではないかという話もいただいた。これについても調べたところ、所有者が既に破産している状態で、なかなか難しいと思っている。引き続き、鳥取市として何か対応できるような方策がないか、研究させていただきたいと思っている。

青谷町にはすばらしい資源がたくさんあり、これからはそれらをいかに活用し、発信していくかが重要になると思う。山陰海岸ジオパークについては、2回目の更新審査が済んだら次の取組みについて早速考えていかないといけない。日本遺産に追加認定された北前船の寄港地については、賀露と合わせて追加認定をいただいた。具体的な利活用については、寄港地同士の連携を取りながらやっていきたいと思っている。

人口減少は青谷町だけでなく、全国的に起こっている状況だということを改めて認識しておかなければならない。明治維新の頃は3,330万人だった人口が、140年かけて1億2,808万人となるような、異常な増加となっていたことが、急激に減少に転じており、また、高齢化も進んでいくといった状況である。しかし、決して悲観的になる必要はなく、将来に希望を持ち、夢を持って、鳥取のすばらしさをお互いに共有しながら考えていけば、自然と道は開けていくと思っている。新しい時代を迎え、価値観も多様化してきている。地域でのつながりを大事にしながら、ここに住んでよかったと思えるようなところを目指していくことが、我々行政の究極の目標ではないかと思っている。また、皆さんのいろいろなご意見をいただきながら、まちづくりをしっかりと進めていきたい。

(観光戦略課補足)

井手ヶ浜海岸は、平成26年度頃から高潮による海岸浸食が進んでいます。その影響により、海岸に隣接する駐車場東側の階段が平成26年度に崩壊し、原状復旧を施しましたが、平成28年度に再び崩壊しました。

以降、バリケードを設置し通行止めとしていましたが、そのバリケードも浸食の影響で平成30年10月に崩落したため、現在応急処置を施すとともに、平成31年度の早期復旧に向けて準備を進めています。

このため、今後の海岸への降り口については、安全面を考慮し、浸食の影響が少ない駐車場西側の階段をご利用いただくこととしています。

(青谷町総合支所地域振興課補足)

駐車場から東側に続く長尾鼻の遊歩道は、台風24号の影響で土砂崩れしていますが、国有地であり遊歩道にかかる部分については、平成30年度に国が土砂を撤去する予定となっています。また、夏泊から浪滝に続く遊歩道の擬木損壊についても、平成30年度中に鳥取



市が修繕予定です。

（青谷町総合支所長）

上寺地遺跡は来年度から史跡公園としての整備に着手し、整備が完了してグランドオープンするのは10年程度先だが、整備が完了した部分から順次オープンしていく。今が盛り上げるチャンスであり、地域で盛り上げていこうと考えている。